

## ■■無視はできない雨対策■■

降るか降らないかで言えば、多分降らない。しかし、時にいきなり降り出し、一旦降りだしたら短時間でも激しく降るので被害甚大。というのが夏の雨だ。

ただでさえ飲料など荷物が増えるのに、その上更に使うかどうか分からない雨対策の用意を、というのは参加者にとってはなかなか悩ましいところだろう。しかし、本当はそのお悩みは見当違いで、本当は、『降らなかった、雨対策を実際使うことにならずに済んだのはラッキーだった!』と思うべきなのだ。

過去に雨に遭ってしまった参加者が口を揃えて言うのが、『実際降りだしたら、用意を持ってきていても結構濡れてしまった。対応が間に合わない』ということだ。

降らないかもしれない、使わなかったら無駄な荷物だ…という意識はこの際捨てて、必須装備として対策は施し、その上でそれを使わずに済むことを願おう。

### ■もしも降ったらシミュレーション■

漫然と雨具とビニール袋をバックに突っ込んでいても、いざ雨が降り出してからそれらを取り出してあてもないこうでもないとやっていたのでは間に合わないのがタ立ちやゲリラ豪雨と呼ばれる夏の雨の厄介なところだ。降り出しそうだな、と思ったら、早めに雨具を取り出し、先にカバンにビニールをかけはじめるときの積極的迎撃姿勢がなくては、大切な戦利品も、自分自身の身も守れないのだ。

そのためには、コミケット前日、家で持っていく荷物を用意している時点から、『もし雨が急に降ってきたら、自分は何をどう使い、どうやって雨から戦利品と荷物、自分自身を守り抜くのか、もし濡らしてしまったらどうするのか』をよくよく考えておく必要がある。

戦利品バッグとカバンをビニールで覆い雨具を身につけるという一連の動作を、シャワーの下で行い、全てをほぼ濡らさずに終えられるか?と考えると、現実的に考えて非常に困難な要求であることが分かるはずだ。

では、どうすればいいのだろうか?

濡らしたくないものは、最初から濡れないようにしておけばいいのだ。

会期中あまり出し入れしない小物類は、天候に関係なく纏めてビニールパックやプラケースに入れてそこそこ防水機能が期待できるバックパックやバッグにしまっておく、戦利品はトートバッグなどに仮入れしては、ある程度いっばいになったらやはりビニールの袋に移してはそのパックごと、大きな手提げ(コミケット公式紙袋など)に入れていく。

衣服や靴は最初から濡れても浸水しないもの、あるいは濡れても乾きやすいものをチョイスする。こうしておけば、雨が降っても降らなくても、会場内の湿気や万の水濡れ(飲物を手提げの中にこぼした、濡れた地面に置いてしまった)からも持物を護ることができ、いざ降りだしたという時にも、余裕を持って手提げにビニールを上掛けし、自分も雨具を身につけることが可能になる。

ちなみに、コミケットに最も適した雨具は、荷物ごととりあえず全て覆えるポンチョである。



### ●この濡荷物の片隅に

逃げ場の無い待機列中で急に雨が降りだしたら、戦利品があれば戦利品を、無ければバッグをまず守ろうと考える参加者が多いだろう。ここで思い出すべきは、アナタがコミケットに持参している、電子機器類だ。ずぶ濡れになりながらも戦利品は死守し、やれやれと思いながら一息ついて、びしょびしょになったポケットの中に防水ではないスマホやゲーム機類、デジカメなどを発見して……というのは、できればしたくない体験だ。

汗や湿度の問題もあるので、それらの機器は予め防水パックや、せめてビニールパックに封入して会場に持ち込むことをオススメする。

